

温泉の成分、禁忌症及び入浴上の注意事項揭示証

成 分

- 1 温泉利用施設名称 箱根高原ホテル
 2 源泉名 元箱根26号(箱根高原ホテル自家源泉)
 3 泉質 ナトリウム・カルシウム・マグネシウム-硫酸塩・炭酸水素塩泉
 (旧泉質名 含重炭酸土類芒硝泉) 中性 低張性 高温泉
 4 泉温 源泉 55.8℃ 浴槽 42.0℃
 5 pH 源泉 7.0
 6 温泉1kg中の成分および分量

(1) 各成分および分量

陽イオン	ミリグラム	陰イオン	ミリグラム
リチウムイオン (Li ⁺)	0.04	フッ素イオン (F ⁻)	0.12
ナトリウムイオン (Na ⁺)	118.	塩素イオン (Cl ⁻)	26.3
カリウムイオン (K ⁺)	14.1	硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	355.
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	55.6	炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	377.
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	101.	炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	0.47
ストロンチウムイオン (Sr ²⁺)	0.00	硝酸イオン (NO ₃ ⁻)	0.00
第一鉄イオン (Fe ²⁺)	2.43	メタケイ酸イオン (HSiO ₃ ⁻)	0.48
アルミニウムイオン (Al ³⁺)	0.04	メタホウ酸イオン (BO ₂ ⁻)	0.02
マンガンイオン (Mn ²⁺)	0.32		
亜鉛イオン (Zn ²⁺)	0.00		
陽イオン計	292.	陰イオン計	759.

遊離成分	ミリグラム	微量成分	ミリグラム
メタケイ酸 (H ₂ SiO ₃)	240.	銅イオン (Cu ²⁺)	0.00
メタホウ酸 (HBO ₂)	3.77	鉛イオン (Pb ²⁺)	0.00
遊離二酸化炭素 (CO ₂)	63.8	カドミウムイオン (Cd ²⁺)	0.00
硫化水素 (H ₂ S)	0.02	総ヒ素 (As)	0.023
		総水銀 (Hg)	0.00
遊離成分計	308.	微量成分計	0.02

(2) 成分総計 1.359g/kg

7 温泉の分析年月日 平成 16年 12月 13日

8 分析機関の名称及び登録番号 神奈川県温泉地学研究所
 神奈川県知事登録 第1号

禁忌症、入浴上の注意事項

- 1 適応症
 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進きりきず、やけど、慢性皮膚病、動脈硬化症
- 2 禁忌症
 急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(とくに初期と末期)
- 3 入浴の方法および注意
 (1) 最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。
 (2) おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり(湯さわり又は浴湯反応)が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
 (3) 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を相当とすること。
 (4) 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 ア 入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
 イ 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
 ウ 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい)。
 エ 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。
 オ 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。
 (ア)高度の動脈硬化症 (イ)高血圧症 (ウ)心臓病
 カ 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 キ 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
 ク 飲酒しての入浴は特に注意する。

4 禁忌症、適応症決定年月日 平成19年11月12日

5 決定者 神奈川県小田原保健所長

